

# 病害虫発生予察特殊報(第6号)

平成 28年 2月 10日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：トマト葉かび病菌 レース2.9

病原菌名：*Passalora fulva* (Cooke) U.Braun&Crous

作物名：トマト

## 1 発生経過

- (1)平成27年5月に県東部の施設トマトにおいて、葉かび病抵抗性品種‘CF 桃太郎はるか’（抵抗性遺伝子*Cf-9*）に葉かび病の発生が確認された。罹病葉から分離された菌株について、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所にレース検定を依頼したところ、本県では未確認のレース2.9（抵抗性遺伝子が*Cf-2*または*Cf-9*の葉かび病抵抗性品種を侵すことができる菌株）であることが判明した。なお、抵抗性遺伝子*Cf-9*を持つ品種を侵すことができるレースは、これまでに東北から九州にかけて各地で発生が報告されている。

## 2 病徴および生態

- (1)本病は主に葉に発生し、発病葉の表面は一部黄変し（図1A）、裏面に灰黄色から緑褐色のピロード状のかびが密生する（図1B）。
- (2)症状が進展すると、葉裏の菌叢は灰褐色から灰紫色に変化する。病斑は初め下位葉に現れ、しだいに上位葉にひろがる。病勢が激しい場合には葉が枯れ上がる。
- (3)*P. fulva*のレースは、今回確認されたレースを含め国内で13種類が確認されているが、レースによる病徴に違いはない。なお、本病の発生初期はすすかび病と酷似しており、肉眼での判別は困難なので、顕微鏡による確認が必要である（図2、3）。

## 3 防除対策

- (1)県内で栽培されている抵抗性品種は、抵抗性遺伝子が*Cf-4*または*Cf-9*のものが多く、*Cf-4*を持つ品種を侵すことができるレースについても既に他県で報告されていることから、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、本病の発生に注意する。
- (2)肥料切れや着果負担等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
- (3)多湿条件下で発生しやすいので、換気やかん水量等に注意する。
- (4)発病葉は伝染源となるため、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (5)多発してからの防除は困難なので、初期防除に努め、薬剤散布は葉裏にも十分にかかるように丁寧に行う。なお、薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで使用する。



図1 トマト(品種:CF桃太郎はるか)に発病したトマト葉かび病の病徴(A:表面、B:裏面)

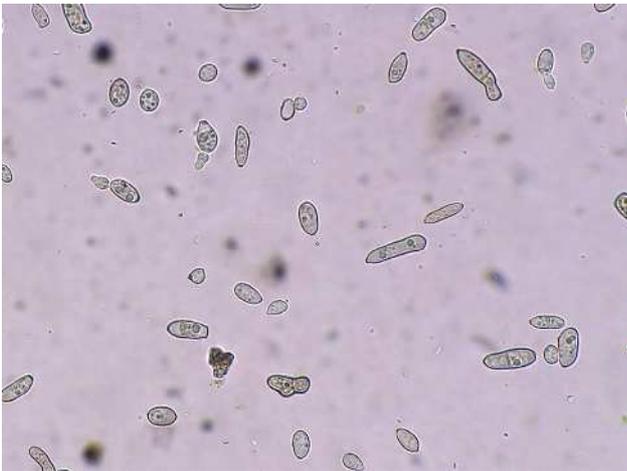


図2 トマト葉かび病菌の分生子



図3 トマトすすかび病菌の分生子

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>